

徹底的に挑戦できるのが、 豊和という会社の面白さです。

小谷和弘

(本社生産一課係長 / 洗い生産現場の管理(デニム・染))



もっと生の声

Q & A

—— 思い出に残っているエピソードはありますか？

海に行った時に、きれいな色のジーンズを履いているサーファーがいて、その色を再現しようとしたことがありました。その時、デニムを海水で洗ったらどうなるだろうと考え、タンク5個分の海水を持ち帰って実験しました。残念ながら、目に見えた変化はありませんでしたが、よい経験をさせてもらいました。試してみないと分からないことはありますからね。こうした挑戦はやりがいを感じますし、それを後押ししてくれる職場環境は本当にありがたいです。

—— 新しく取り組んでいることはありますか？

これまで職人が勘で行っていた工程をマニュアル化することです。作業を共有化することで、決められた納期で求められる品質に仕上げることや、試作品と量産品との誤差調整等の難しい作業を短時間で確実に行う事が出来るようになります。少しでも多くの時間を新しいことへのチャレンジにあてられる環境を目指しています。

—— 今後の抱負を教えてください。

いまは市場の動きが速いので、新しいアイデアを出せる人が求められる時代です。昔からの技術を継承していきながら、新たなことにチャレンジしていくのは面白くもあり、やりがいもあります。もっとスキルアップして、品質面での安定感を増すとともに、高品質でリーズナブルな製品づくりに取り組んでいきたいですね。

「洗い加工という仕事はあまり知られていませんが、洋服の価値を決定づける重要な工程であり、大きな可能性を秘めた仕事です。」と語る小谷さん。学生時代に繊維科で学び、洋服が好きだったことが業界に入るきっかけとなったそうです。

今年で入社16年目になり、現在は、加工で使用する染料のレシピ調整、加工後の色確認・調整・色合わせなどの管理を担当。「1本だけサンプルとして作る場合と量産する場合とでは、水や薬品の量が違います。量産するときもサンプルと同じ仕上がりになるよう、細かな調整に気を使っています。」そうやって自分の調整で依頼どおりに仕上がって、お客様に喜んでいただいた時や、1回でうまく色合わせができた時には、染色という仕事のやりがいを感じるそうです。

若い方にこの仕事の魅力を知ってもらい、技術を引き継いでいくとともに、一緒に新しい加工を生み出していくことが夢だという小谷さん。「縫製した洋服に加工を施し付加価値を加えるという工程を知らない人も多いのではないのでしょうか。実は私も入社までは詳しくは知らなかったので、入社後に社内の業務を一通り経験させてもらって勉強していきました。ですので、もっと多くの方に加工の魅力を知ってほしいですね。豊和で仕事をしていると、チャレンジ精神が触発されます。若い方には、私たちにはない新しい発見をしてくれたら嬉しいです。」

